

まよったんて

vol.105

主な内容



特集 市民みんなが地域の「ちからこぶ」

市政トピックス

- ・京丹後型「新グリーン経済」構築に向け始動
- ・京丹後まちづくり青年塾スタート

市政ガイド

京丹後市の台所事情⑫

ほか

2012 12月号
平成24年

11月22日発行



大宮町五十河地域は、明田、延利、五十河、久住、新宮の5つの集落からなる。北近畿最大級の規模を誇る「内山ブナ林」を有する豊かな自然環境と、小野小町のゆかりの地で文化的な特性を併せ持つ地域である。

みんなで活力ある地域を取り戻そう

同地区は194世帯、495人で高齢化率は42・6％（※）。少子高齢化などによる過疎化が進行し、農地が荒れたり集落における共同活動や伝統行事ができなくなるなど、集落機能の維持（※）いずれも平成24年4月1日現在の住民基本台帳による人口から算出



が困難になっている。そこで「みんなが連携して、活力ある地域を取り戻そう」と地域住民が立ち上がり、5集落と地元のNPO法人や村づくり委員会など7団体で「五十河地域里力再生協議会」を組織。平成21年度に「里の人づくり」事業（事業期間 平成21～23年度）の採択を受け、地域活性化への取り組みをスタートさせた。

まずは、集落が抱える課題を掘り起こすため、住民アンケートを実施。子や孫に地域の誇りを伝える▽子どもたちに残す田舎づくり▽持続可能で楽しい田舎ぐらし、の3つを地域の将来像とする「里力再生計画」を策定した。農業経営を通じて里力を再生▽互いに助け合い、地域が一体となる取り組みを推進▽未活用資源、既存施設の活用、などを事業のねらいとした。

事業は、各集落で課題を整理し、その対策を講じていく中で、地域全体の活性化に結び付ける計画とした。地域内にある「小町公園」などを最大限活用しながら集落ごとに



3棟の古民家が建ち並び「民家苑」で初開催した「秋穫祭」（10月21日）

集落連携と「民家苑」を核にしたまちづくり

五十河地域里力再生協議会

大宮町



五十河地域里力再生協議会
会長 由利 進さん（69）
（大宮町明田）

進めることとし、再生計画とともに定めた「地区別再生計画」に基づいて、生活基盤や農業生産基盤の整備を実施した。

継続的な取り組みがまちづくりの関心広める
地域全体の核となる施設

として整備し、農業研修施設としての活用も検討している「民家苑」でこの10月、「秋穫祭」を市内の企業との連携により初めて開催した（21ページ関連記事）。「例えば、五十河地域と市内の旅館業者が連携すれば、さらにいろんなことができると思います」と由利会長は話す。

「これまで、地域のひと共に継続的な取り組みを進めていく中で、まちづくりに関心を持ってくれる人の輪が広がりとつとあると感じています」

まちづくりに関わる「人」と地域再生への取り組み



特集 市民みんなが地域の「ちからこぶ」

「人、ひと、ヒト」が

元気なまちを創造する

暮らしやすい魅力的な地域を創るために、自分たちで工夫して行動する「地域力」が求められている。その大きな力となるのが、市民一人ひとりの「力」だ。若者、よそ者、ばか者の力が必要だとも言われている。今、市内のあちこちでは、住民が自らの地域を見つめ直し、自らその課題の解決に取り組み、地域独自の価値を創り上げようとする動きが活発になっている。多様な人材がさまざまな立場でまちの活性化に関わっている。そんな「元気なまちづくり」に取り組む「人」たちを訪ねた。



目次 index



特集 市民みんなが地域の「ちからこぶ」 P2

市政トピックス P12

京丹後型「新グリーン経済」構築に向け始動
／京丹後まちづくり青年塾スタート ほか

市政ガイド P16

つながりの中に学びを育む⑥／京丹後市の台
所事情⑫ ほか

まちのわだい P20

"宇川ならでは"のグルメを堪能／男女 87人
が華やかな着物姿でランチ ほか

京都府のひろば P22

—The Healthy Life—
地域医療の現場から P23

みんなの広場 P24

京たんごスポーツ P26

生命の絆 P27

情報ファイル P28

市の文化財／ジोटピックス／宮川優のたんご
優遊見聞録／図書館だより／広報クイズ ほか

京丹後人 ③② P32

国内唯一の外国人杜氏 フィリップ・ハーパーさん

“きもの”のある風景



◎今月号の表紙のテーマ

日本の文化「茶道」
～もてなしの心を育む～

◎撮影協力

京都府立網野高等学校茶道部の皆さんと
指導者の中江宗唱さん（写真左）。
撮影にご協力いただき、ありがとうございました。



「宇川美味しんぼ大会」で地域が一つに

宇川里力再生会議

丹後町

丹後町宇川地域は、旧上宇川村と旧下宇川村の14集落からなる。日本の棚田百選に選ばれた「袖志の棚田」やアユが遡上する「宇川」をはじめ、「経ヶ岬灯台」「丹後松島」などの資源が豊富にある。一方で、市の中心部から最も離れており、過疎・高齢化に悩まされている地域の一つでもある。

気持ちや行動ひとつで 大きな飛躍も

同地域は639世帯、1548人で高齢化率は39.0割（※）。地域全体に閉塞感が漂う中、「知恵を出し合って地域の絆を回復し、住民が主体のまちづくりを目指す」と、住民自らが立ち上がった。平成21年度に「里の人づくり」事業（事業



（上）毎年数百人を集める「宇川美味しんぼ大会」（平成23年10月30日開催時、宇川小体育館）
（下）犬ヶ岬園地（丹後町此代）から宇川地域を望む

期間 平成21～23年度）の採択を受け、地域再生へ活動をスタートした。

早速、各区分で組織する「宇川里力再生会議」（平井貞雄代表）を設立。各区分から選出された委員でつくる「地域ビジョン検討委員会」で地域の課題を掘り起こした上で、将来ビジョンを「里

力再生計画」にまとめた。

計画では、地域の現状を『住民が希望を持てずに半ば諦めている状況』と分析する一方で、「自然や文化などの資源に恵まれており、住民自身の気持ちや行動ひとつで大きな飛躍も決して夢ではない地域」と掲げた。そして、「豊かな自然と文化を

未来へ継承」と「まちづくりへの子どもの参加」を地域再生の主眼に置き、ソフト・ハード両面から取り組むことになった。

「宇川」の清掃と 宇川美味しんぼ大会

事業初年度は、地域の課題になっている生活環境基盤や農業生産基盤の整備に取り組み、併せてコミュニティの拠点となる集会施設の改修などを行った。さらに、計画実施に先駆けて「地域



宇川里力再生会議
代表 平井 貞雄さん（65）
（丹後町袖志）

づくり講演会」を開催。地域住民がまちづくりに対する思いをひとつにした。

事業2年目となる平成22年度から、本格的な活動がスタート。「宇川」の清掃や、郷土料理の伝承と地域間の交流を図るため「宇川美味しんぼ大会」を開催した。宇川ならではの味を求めて、地域内外から数百人が訪れるなど注目を集めた（以降毎年開催。子どもたちが「ばらずし」作りに参加することも、本イベントの特徴の一つだ。

住民が一つにまとまれば 大きな力になる

「宇川美味しんぼ大会」は、まさに、宇川の「元気の源」ではないでしょうか。そして何よりも、宇川の人たちが一つにまとまれば、大きな力になるということを実感しました」と平井代表は話す。

宇川地域は、「食」を核としたまちづくりへ動き出した。今年度は、「宇川美味しんぼ大会」のほか、特産品づくりにも挑戦。地域の活性化と所得の向上、雇用の場の創出につなげたいという。

支え合う暮らしやすい地域に

神野地区自治会

久美浜町



神野地区自治会
会長 松本 義雄さん（63）
（久美浜町鹿野）

楽しむ「かぶと山秋路健康ウォーク」を企画。久美浜湾を含めた地域の観光資源を生かす取り組みで、昨年10月に初開催。参加者らに郷土料理の「茶がゆ」を振る舞うなど、地域の魅力発信も兼ねた催しとして定着化を図ることとしている（今年度は荒天のため中止）。

環境福祉部会は、子育て支援に力を入れる。昨年4月に「神野ひよこサロン」を開設し、子育て中の母親を手助けする。地域のボランティアスタッフを中心に運営し、毎月1回の交流会や悩み相談などを行っている。

産業部会は、新たな特産品づくりを目指す。農産加工グループが、摘果メロンのかす漬けやナシを使ったゼリ、モモジャムなど地元の農産物を使った加工品の商品化を模索している。

今年度は、事業の最終年度。「計画を作ること地域課題が見えた。従来と違うまちづくりがきている」と話す松本会長。各部会の活動がうまく機能し、軌道に乗せることで将来像の実現を目指している。



（上）国営鹿野団地から神野地区を望む
（中）「神野ひよこサロン」（平成23年4月14日の開所式で）
（下）「かぶと山秋路健康ウォーク」（平成23年10月16日開催）

神野の将来像の実現へ 4つの振興方針

同地区は446世帯、1386人で高齢化率は30.8割（※）。少子高齢化、農地の荒廃が進み、有害鳥獣対策や休耕田の有効利用が課

（※）いずれも平成24年4月1日現在の住民基本台帳による人口から算出

題になっている。そこで平成17年、人口の減少に歯止めを掛け明るく住みよい地域をつくることを目的に「神野地区自治会」を設立し、地域ぐるみで課題の解決に取り組んできた。そして、平成22年度に「里の人づくり」事業（事業期間 平成22～24年度）の採択を受け、新たなまちづくりへ踏み出した。

同自治会は、アンケート

活動は「地域活性化部会」「環境福祉部会」「産業部会」の3部会でそれぞれ推進する体制とした。

3つの部会を組織し 事業計画を推進

地域活性化部会では、ノルディックウォーキングで秋の「かぶと山」周辺の散策を



まちの元気を創る「人」

励まし合い協力し合える仲間

京丹後市きもの交流会



京丹後市きもの交流会
会長 堤 木象さん (55)
(網野町浅茂川)

丹 後ちりめんを中心とする織物業や関連産業の振興を目的に活動する「京丹後市きもの交流会」。平成19年に設立され、市内の着物関連20事業所が会員になっている。

活動は、着物・浴衣の着付け教室や展示会の開催、中学校の卒業生に授与される「ちりめん製卒業証書」の製作、新商品開発など多彩だ。

昨年度は、丹後ちりめんを使った「コッぺちゃん」の新作衣装を製作した。また、国民文化祭のシルクファッションフェスティバルでは、「きものファッションショー」の企画から運営までを手掛けた。さらに今年度は、「広報きょうたんご」の表紙写真の企画にも携わっている。



(右) 企画から運営までを手掛けた「きものファッションショー」(平成23年11月3日、国民文化祭・京都2011「シルクファッションフェスティバル」)
(左) 丹後ちりめんを使った「コッぺちゃん」の新作衣装

大学生の力で集落が元気に

久美浜町甲坂区



湧き水のさと甲坂
代表 清水 義夫さん (63)
(久美浜町甲坂)

甲 坂区は、久美浜町の西端、棚谷川沿いにある集落で、「湧き水の里」として知られている。

高齢化率は36・0割(※)と高く、高齢化が進むとともに遊休農地や空家が出始めた。集落機能の低下への危機感が高まる中、平成20年、府・市の「ふるさと共援活動」事業を活用し、大学生の知恵と力を借りながら地域再生へ活動を開始した。

同年、「共援協定」を龍谷大と締結。まずは全区民にアンケート調査を行い、地域の課題を掘り起こした。そして、区民と大学生で地域資源の発掘とその活用などによる新しいまちづくりの計画を打ち出した。

区民たちは大学生の支援を受けながら、小豆(甲坂大納言)栽培や乾燥シイタケの生産に取り組むなど、新たな特産品づくりに挑戦。獣害対策



(※) 65歳以上が人口に占める割合。平成24年4月1日現在、住民基本台帳による人口から算出

(右上) 獣害防止のための鉄柵を張る作業
(右下) 甲坂不動尊例大祭に向けた参道清掃
(左) 秋祭り太鼓台を担ぎ区内を練り歩く区民と大学生

地域住民の集いの場に

チャレンジつねよし百貨店実行委員会



㈱アマタ持続可能経済研究所
東田 一馬さん (47)
(大宮町下常吉)



地

域住民の声が営業再開へ。今年8月に営業を終了した大宮町上常吉の「常吉村営百貨店」が、「つねよし百貨店」の名で11月1日にオープンした。



(右) 営業を再開した「つねよし百貨店」
(上) 売り場スペースを縮小し、「子どもスペース」や「カフェスペース」を充実させた店内

わってきた東田一馬さんと真希さん夫妻ら地域住民が「チャレンジつねよし百貨店実行委員会」をつくり、運営を引き継いだ。真希さんが代表に就任し、一馬さんは継続的な運営を目指してサポートする。

売り場スペースを縮小する一方で、子どもが遊んだり、客が会話を楽しんだりできる場所を新たに設けた。「これまで通り、地域住民の生活を支える施設としての機能を維持しつつ、子どもからお年寄りまでがつながる施設としての機能を充実しました。何より地域住民の集いの場でありたい」と一馬さん。

再開から約1カ月。「地域の皆さんに支えられていると実感しています」――

自然から地域の大切さ学ぶ

京丹後長岡緑の少年団



京丹後長岡緑の少年団
事務局 嶋田 喜一さん (63)
(峰山町長岡)

峰 山町長岡区の子どもたちだが、山の自然環境を守る取り組みを入れている。「京丹後長岡緑の少年団」(嶋本茂男団長)だ。平成3年、京都府宇治市で開かれた「全国植樹祭」の前年に結成。現在、小学3～6年生の13人が所属している。

活動は、月に1～2回のペース。自然観察やキャンプ、水生生物調査のほか、シイタケ栽培、「緑のカーテン」作りなど幅広い。昨年は、北近畿タンゴ鉄道(KTR)の峰山駅構内の花壇作りや清掃を行い、今年は間伐材で作ったプランターカバーを寄贈するなど、駅的环境整備も行った。同少年団の活動は高く評価され、これまでに幾多の表彰を受けている。

「家族や友だち同士でもできないことを経験させたいんです」と話す自然観察指導員の資格を持つ嶋田さんは、長



地元の「大谷川」の水生生物調査



若 手農業者グループ「百姓一揆」が注目されている。平成19年、「農業者同士の横のつながりを作ろう」と、丹後町の6人で結成。網野、弥栄町の同志が加わり、現在は10人で活動している。メンバーは20～30代。その経歴はさまざま。家業の農業を受け継いだ人だけでなく、料理人や会社員、WEBデザイナーだった人もいる。多様な経験や知識を持ち寄り、若いエネルギーとユニークな発想で地域農業の将来像を描く。

活動は、情報交換や勉強会、作物の共同栽培・販売、農業体験イベントの実施など多岐にわたる。昨年からは、丹後町筆石の通称「絶景田」で、地域の人たちと無農薬で米作りを始めた。三方を海に囲まれた田んぼからの美しい景色と農作業を楽しんでもらう「絶景田プロジェクト」の試みだ。

さらにメンバーたちは、「丹後こども園」（丹後町間人）を訪問し、園児たちと野菜作りにも取り組んでいる。食物を育てて収穫する喜びを子どもたちに味わってもらいたいとの思いからだ。

「僕たちの活動が、まちの活性化につながるようなことがあればとても嬉しいですね」と松本さん。秋のイベントシーズン到来で、メンバーたちは忙しい日々を送っている。



活動を通して、出会った人々から多くの刺激を受けているというメンバーたち（丹後町筆石の「絶景田」で撮影）



百姓一揆
会長 松本 敏幸さん（36）
（網野町郷）

艶 やかな衣装に身を包んだ女性たちが、イベントに花を添える。勢いのある舞で観客を魅了する。

約10年前、旧峰山町の商工会女性部が「町内の商店街通りに活気を」と、よさこいを提案。森谷さんをリーダーとするチームが発足した。現在、商工会の女性部員を中心とする9チームが活躍する。

昨年、連合チーム「京丹後よさこい連」（130人）が立ち上がった。京阪神方面での催しに参加するなど、その活動はますます勢いを増している。「大事なのは京丹後の女性が一つになることではないでしょうか」と森谷さん。

各チームが夏の「フェスタ飛天」、秋の「京丹後商工祭」など数々の催しに登場。昨秋の「国民文化祭」では、峰山高生男女17人が京丹後市歌のアレンジ曲で踊りを披露した。よさこいは、世代や性別

を超えて親しまれている。「地域の皆さんの応援があつてこそ。心も体も元気になるますし、何より人の輪が広がります」と森谷さんは話している。



今年4月8日に京都市役所前広場ほかで開催された「第8回京都市さくらよさこい」に参加した京丹後よさこい連のメンバーたち



京丹後よさこい連
代表 森谷 チヨさん（79）
（峰山町丹波）

若さとユニークな発想で

若手農業者グループ 百姓一揆

「とにかく人口を増やしたい」

NPO法人「気張る！ふるさと丹後町」

後町のNPO法人「気張る！ふるさと丹後町」（小倉剛成理事長）が、最も力を入れている活動が結婚対策だ。

「組でも多くのカップルを誕生させたい。とにかく人口を増やしたいんですよ」。同NPO法人の副理事長で「婚活」担当の村上さんは言葉に力を込める。過疎化が進み人口が減少している現状に危機感を募らせ、お節介役を自ら買って出た。

年に一度、結婚を後押しするため、独身男女の出会いの場を提供。バーベキューやクルージングなど趣向を凝らしたカップリングパーティーを催し、これまでに4組の夫婦が誕生した。参加者から感謝の声も寄せられている。

課題は、女性の参加者が思うように集まらないこと。そこで4回目の今年（11月25日開催）は、男女が気軽に参加



できるようなイベント内容を見直し、新たなカップル誕生を期待する。ネーミングも「婚活」に変えた。

同NPO法人は、地域住民が知恵と力を出し合い地域の課題解決に自ら取り組む組織として、平成21年に設立。町内出身者の人生の節目を祝うとともに地域参画へのきっかけづくりとする「60のつどい（還暦式）」を毎年開くなど、地域の活性化を目指した活動も展開している。



（右）NPO法人設立初年度に開いた「カップリングパーティー」の様子
（左）今年度開催の「60のつどい」



NPO法人「気張る！ふるさと丹後町」
副理事長 村上 正宏さん（66）
（丹後町袖志）



（右）「丹後食文化交流会」で並べられた郷土料理の数々（今年2月22日、峰山地域公民館で開催）
（上）今年6月17日に、久美浜町の小天橋海水浴場で開催されだ「プレイフル・サンドアート in 丹後」。親子での参加も増えてきたという



市 内の女性団体代表でつくる地域活性化グループ「丹後わくわくスポット」きらめき」（会員28人）。女性の視点で、地域に根差したさまざまな活動を行っている。遊びを通じた子育てや京丹後の魅力発信をテーマに「プレイフル・サンドアート丹後」

を毎年開催。浜辺で砂の造形を楽しみながら子どもたちの創造力などを育む催しで、指導は同志社女子大の学生たちが当たる。親子の触れ合いの場としても親しまれている。

さらに、地域の食文化を見つめ直そうと「丹後食文化交流会」を企画。毎年、会員などが家庭や地域に伝わる郷土料理を持ち寄って交流する。5回目となる今年度は、丹後の郷土食を次世代に語り継いでいくため、レシピ集の発行も計画している。

そのほか環境や女性の権利などを考える研修会も行なうなど、充実した活動を続けている。

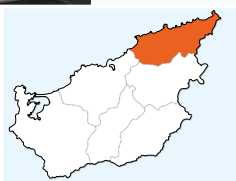
「会の名前は、地域できらめく活動をしよう」と全員で決めました。みんな楽しんで活動しています。自分たちが楽しむことが周りにも楽しませることになると思いますから」と小西さんは話している。



丹後わくわくスポット「きらめき」代表 小西 恭子さん（62）
（大宮町口大野）



丹後市民局配置
下田 好之さん (57)



丹後町は、自然と触れ合うことで心がフレッシュし、体力づくりに役立っています。

活力と元気、雇用拡大、人口増加の一助に

行動することです。

丹後町は、「景色よし」「味よし」の自然環境に恵まれ、また115歳でギネス「男性長寿世界一」に認定されている木村次郎右衛門さん（同町中野在住）に代表される長寿のまちです。

しかし、人口の減少率は旧町の中で一番の高さ。企業も少なく、特に若者の定住率が低いというのが現状です。少子高齢化に歯止めがかからず、一部の地区では、いわゆる「限界集落」も発生しています。

私の役割は、「地域まちづくり計画の策定」「地区ホームページの開設」「自主防災組織の設置促進」に努めることと、「2012宇川美味しんぼ大会」「丹後町気張る！ふるさと祭2012」などに関わる。住民の皆さんの活力がみなぎり、丹後町に「元気」が出て、雇用が拡大し、人口が増加する一助となるように行動することです。



峰山市民局配置
中村 博さん (50)



峰山町の中心部「富貴屋」に妻と娘二人で暮らしています。保育所から高校まで「峰山」が付く所で育った生粋の「峰山っ子」。趣味は自転車（ロードバイク）。冬は家族でスキー。「峰山地区河川整備等まちづくり促進協議会」事務局を務める。



弥栄市民局配置
西村 格朗さん (45)



弥栄町和田野在住。趣味は高校生のときから始めた写真。あまりにも夢中になり、専門学校に通い勉強したこともあります。毎日自分で弁当を作り？ いざ出勤！

災害発生時に隣近所で協力し合えるまち

弥栄町は自然に囲まれたのどかなまちですが、産業がないため多くの若者が峰山方面に勤務しています。「どうしたら仕事があるのか」「どうしたら若者が弥栄町に定住してくれるのか」など課題は多くあります。

昼間は地域に若者が少ないという状況にあるため、災害が発生したときは隣近所の人たちが逃げ遅れたりしないように協力し合えるまちづくりをしていきたいと思っています。

また、もっと多くの人に弥栄町を知ってもらうため、自分が持っている技術を生かしながらホームページ制作に取り組み、地域をPRしていきたいと思っています。



久美浜市民局配置
酒井 良則さん (62)



久美浜町湊宮在住。平成23年6月から「地域サポーター」として、今年7月からは「地域にぎわい創り推進員」として地域のにぎわい創りを担当しています。

久美浜町をまるごとプロデュース

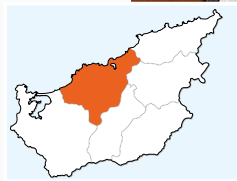
久美浜町には71の集落があります。それぞれが一つの区として活動していますが、世帯数が30戸前後の区が35区あり、10戸に満たない区が3区あるなど、集落機能の低下が懸念されています。

このような状況にあって、旧村単位にある8つの地区活性化協議会の役割はとても重要であり、それをうまく機能させることがそれぞれの地区の維持、発展につながるものと考えています。

現在、町内の各種団体・事業者で「久美浜まるごとプロデュース協議会」を組織し、市の友好都市である京都府木津川市との交流を通して、町全体の産業振興、活性化を進めようというプロジェクトに取り組んでいます。思い描く久美浜の将来像の実現を楽しみに活動しています。



網野市民局配置
福森 喜八さん (61)



網野町遊在住。地元遊区のホームページの制作に参加しています。「あそびの夢」にぜひ一度お越しください。

寄り合い、助け合って活動の輪を広げよう

防犯活動や防災活動、子育て支援や高齢者支援など、地域の皆さんが寄り合い、助け合って活動の輪を広げていくことで、地域づくりが推進されていくと考えます。微力ですが尽力したいと思っています。

お隣さんや近所さんは、普段からのお付き合いを大切にすれば連帯感も強くなります。その上で、例えば自警団のような自主防災組織が整備されていけば、さらに安心です。

少子高齢化を実感するとともに、隣近所との関わりが希薄になってきているように感じています。もしもの災害が起こったとき、多くの人たちが連携しながら避難したり救助したりすることができるよう心がけたいです。

大宮市民局配置
糸井 嘉彦さん (59)



集落固有の状況を把握し、新たな自主活動を支援

大宮町三重在住。平成23年6月から「地域サポーター」として、今年7月からは「地域にぎわい創り推進員」として地域づくりに頑張っています。

まちづくりを支える「人」

地域のまちづくりをマネジメントする「地域にぎわい創り推進員」(*)が各市民局に配置された。推進員の6人に、地域のにぎわい創出への意気込みを聞いた。

峰山町は市の中心部に位置し、他町に比べると便利で恵まれた環境にあるといえます。しかし、「まち」（旧峰山町）の中心部は、空洞化現象が生じており、子どもの声が聞こえなくなった区や、住民のほとんどが高齢者という区もあります。

少子高齢化が加速度的に進んでいるのはこの地域でも同じです。それならせめて、みんなが元気に寄り添いながら暮らしていける新たな「まちづくり」を考えていくことが重要だと感じています。

私たち推進員は、言うならば「社会人採用枠」です。即戦力で結果を出すのが役目だと思っています。今までの経験を最大限に生かして職務を成し遂げなければなりません。

他の推進員さんと情報を共有しながら、継ぎ目のない、より良い仕事ができるようにしたいと考えています。

みんなが元気に寄り添い暮らすまちづくり

地域にぎわい創り推進員 地域の特性や特徴を生かしながら市民と行政が協働して地域自治活動などを活性化し、地域ににぎわいを創出するため、全市民局に配置。平成23年6月から大宮町、久美浜町でモデル実施していた「地域サポーター制度」を引き継ぐ。職務は、地域まちづくり計画の策定推進、自主防災組織の設置促進、区長連絡協議会庶務など。



▲KTRの活性化について発表する若者たち

まちづくり青年塾は、市内の20代、30代の若者が集い、京丹後のビジョンについて語り合う場。(社)京丹後青年会議所、市商工会青年部、市職員、一般公募から募った75人で構成されています。

10月22日の青年塾では、若者たちがグループに分かれて話し合いを進めてきた「KTRの活性化」について発表しました。

Rの活性化」「婚活・移住(定住対策)」「森本IC完成に伴う活性化策」の3つのテーマについて発表が行われました。

「KTRの活性化」では、中高年をターゲットに魅力的な車両を取り入れることや、KTRを売り出すための広報に力を入れることなどが提案されました。

「婚活・移住(定住対策)」では、京丹後市へのUターンを促進するために、子どもに対する郷土愛を育む教育の推進や京丹後を離れて暮らす人に安心して帰郷してもらえるよう、効果的に情報を発信することなどが提案されました。

「森本IC完成に伴う活性化策」では、森本工業団地に京丹後市ならではの起業家を誘致する支援制度を創出することや、高速ネットワークの完成に伴う観光客誘致によって外貨を獲得することなどが提案されました。

まちづくり

京丹後まちづくり青年塾スタート

若者の発想で未来を切り開け

若者たちが京丹後市の将来のビジョンを語り合い、斬新な発想や考え方により施策を検討することを目的とした「第1回京丹後まちづくり青年塾」が10月22日、峰山町の総合福祉センターで開講されました。

▶意見が飛び交う検討会議の様子



検討会議は、中部経済連合会常務理事の小川正樹さん、関西経済連合会理事の阿部孝次さん、京都工業会副会長の錦織隆さんの他、市内の商工業団体と行政機関の代表者ら16人で構成されています。

検討会議の発足に先立ち、中山市長が「平成26年に予定される高速道路の開通や舞鶴港の拠点港指定に当たり、北陸、中部、関西と本市のアクセス整備が格段に改善する。本市の自然環境などの新時代に通用する魅力を織物、機械金属、観光などの産業に生かしながら付加価値として組み合わせる、京丹後型『新グリーン経済』の構築を目指したい」と

とあいさつ。検討会議の役員には、会長に市商工会長の沖田康彦さん、副会長に小川正樹さんと錦織隆さんが選ばれました。

会議では、▽産業起こしの切り口として「長寿」「ヘルスケア」などの分野も検討するべき▽企業誘致と並行して、地元企業が活性化を取り組みが大切▽6次産業化を推進し、生産と販売が一体となる加工品づくりに取り組むべき▽竹の繊維、葉草などの自然資産を形、もの、素材に変えて既存の産業とつなげるーなど立場の異なる視点から多くの意見が出されました。

その上で小川副会長は、「この地域の特色をいかに整備し、生かし、この地域ならではの新しい取り組みを進めることができるかが大切だ」と話しました。

検討会議は、本年度中に計4回開催する予定で、条例案や施策の検討を行います。

まちづくり

京丹後型「新グリーン経済」構築に向け始動

―大阪や名古屋の経済界からも幹部が参加―

市は、10月25日、市内外の経済団体や行政機関、商工業者などで構成する「京丹後市新経済戦略検討会議」を立ち上げました。会議では、本市の豊かな自然環境などの特色に加え、平成26年に開通予定の京都縦貫自動車道や、国の拠点港に選定された舞鶴港などを最大限に活用した経済戦略の在り方を探り、企業立地や商工業の振興のための総合的な条例整備や施策の企画、立案を検討します。

とあいさつ。検討会議の役員には、会長に市商工会長の沖田康彦さん、副会長に小川正樹さんと錦織隆さんが選ばれました。

会議では、▽産業起こしの切り口として「長寿」「ヘルスケア」などの分野も検討するべき▽企業誘致と並行して、地元企業が活性化を取り組みが大切▽6次産業化を推進し、生産と販売が一体となる加工品づくりに取り組むべき▽竹の繊維、葉草などの自然資産を形、もの、素材に変えて既存の産業とつなげるーなど立場の異なる視点から多くの意見が出されました。

その上で小川副会長は、「この地域の特色をいかに整備し、生かし、この地域ならではの新しい取り組みを進めることができるかが大切だ」と話しました。

検討会議は、本年度中に計4回開催する予定で、条例案や施策の検討を行います。

歴史を振り返りまちづくりに生かす

まちづくり

丹後建国1300年記念シンポジウム開催



「丹後建国1300年記念プレ事業 記念シンポジウム」が11月3日、丹後文化会館ホール(峰山町)で開かれ、漫才師の宮川大助さんの基調会談やパネルディスカッションが行われました。

基調会談では、宮川さんが笑いを交えてトーク。「丹後が大好き。美しい自然や古い歴史など、魅力が多い宝の山だ」などと丹後の魅力を語りました。

また、パネルディスカッションでは「丹後建国1300年を振り返りまちづくりにつなげる」をテーマに(株)観光販売システムズ取締役部長の西野彰二さんや(株)よしもとクリエイティブ・エージェンシー専務取締役の竹中功さんなど6人のパネリストを迎えて意見交換。「地域の人が観光客を笑顔でもてなすことが重要」「建国1300年を住民が主体となってオンリーワンの丹後の魅力を見つける機会にするべき」などの提案がなされました。

丹後町と久美浜町の小・中学校へ赴任

教育

ALTにユリーさん、テミさん

市教育委員会は、英語教育の充実を図り国際理解教育を推進するため、ALT(外国語指導助手)を配置しています。このほど、2人の離任に伴い、新たにユリー・マクシモヴィッチさん、テミ・ベネットさんを任命しました。



ユリー マクシモヴィッチ
Yuri Maksymovych
出身国:アメリカ
配属先:丹後



テミ ベネット
Temitutu Bennett
出身国:アメリカ
配属先:久美浜

60代の消費者ターゲットに商品開発

まちづくり

天然素材の研究会開催

60代の消費者をターゲットとして、新たな商品やサービスの開発を研究しているGS世代研究会(※)の分科会、「天然素材分科会」が10月26、27の両日、本市で開かれました。同分科会を構成している全国の大企業や自治体など8団体の代表者が、絹(シルク)などの天然素材を使った新商品開発の検討や市内の織物関係施設の見学などを行いました。

分科会メンバーは26日、丹後織物工業組合(大宮町)、京たんご「ばたん・もみじ比治の里」(久美浜町)、京丹後ふるさと農園(網野町)など自然素材を扱う施設などを訪問。丹後織物工業組合では、組合職員の案内で、加工場に持ち込まれた生機からタンパク質成分のセリシンを取り除き、出荷するまでの精練工程を見学しました。

27日の分科会では、市役所会議室で市内の繊維事



▲プレゼンテーションや意見交換が行われた分科会(27日、市役所で)

業者によるプレゼンテーションが行われ、丹後織物工業組合がセリシを使ったスキンケアなどを説明。また、藤布などを作製している遊絲舎(網野町)が、藤から藤布をつくるまでの過程を説明し、新たな商品開発に向けた意見交換を行いました。

※GSとは、ゴールデンシクスティーズ(=黄金の60代)のこと。同研究会は現在、全国の大企業や自治体合わせて65の幹事団体と約200の一般会員企業で構成されており、経済評論家の西村晃(あきら)さんが座長を務める。本市は、幹事団体として参画している。

▶北近畿で日本海に面する自治体の長が集まり、産業や観光の振興について意見を交わした



小浜市役所（福井県）で11月5日、「第6回若狭・丹後・但馬 中日本海交流会議」が開催され、本市の中山市長のほか、小浜市、舞鶴市、宮津市、豊岡市（兵庫県）の各市長らが出席。

広域連携

若狭・丹後・但馬 中日本海交流会議開催

産業・観光を共同で推進

地域産業や観光振興をテーマに意見を交わしました。会議では、舞鶴若狭自動車道や京都縦貫自動車道の全線開通（平成26年度予定）を絶好の機会として、地域の特色ある資源を広く発信していくことや、国の日本海側拠点港に選定された舞鶴港を利用した新たなビジネスチャンスの創出に努めることなどを確認。併せて、若狭ルートでの北陸新幹線の誘致や、コウノトリ但馬空港の基盤整備を国や府などの関係機関に強く求めることなども合意し、これらを「共同アピール」として採択しました。

この会議は、北近畿の日本海に面する自治体の首長が府県の枠を超えて地域の情報交換を行ったり、共通の課題を話し合ったりすることなどが目的。平成19年11月に発足して以来、毎年開かれていたものです。

福祉

平和への誓い新たに

戦没者追悼式で3200人の冥福祈る

京都府丹後文化会館（峰山町）で11月7日、京丹後市戦没者追悼式が行われ、遺族や関係者ら約360人が、先の大戦で亡くなった市内戦没者3200有余人の冥福を祈るとともに、平和への誓いを新たにしました。

式では、全員で黙とうをさげた後、中山市長が「互いに手を携えて利他や慈愛にあふれる地域や世界の平和を築くことが私たちの成すべき使命です」と式辞。また、遺族を代表して、平豊さん（網野町）が「亡くなられた皆さまが何よりも望まれた平和と繁栄のために力を尽くします」と追悼の辞を述べました。



▶戦没者の冥福を祈り、白菊を献花する参列者

▶病氣と笑いの関係について話す昇先生（右）



こころの健康づくり講演会開催

健康

「笑顔と笑い」で自殺予防

市は10月25日、峰山総合福祉センターで「笑顔と笑い」をテーマとした「自殺予防・こころの健康づくり講演会&相談会」を開催しました。目的は、「こころの元気な人」を増やし、うつ病や自殺を予防すること。産婦人科医師で日本笑い学会副会長（「笑い与健康」の部門を担当）の昇幹夫先生の講演や、唾液でストレスをチェックする体験コーナー、うつ予防の紙芝居などが行われ、約180人が参加しました。

「笑いは心と脳の処方せん」と題した講演では、昇先生が、赤ちゃんの胎内記憶と親子の絆、死ぬときに後悔しないような生き方、笑いと免疫力の関係などを分かりやすく説明。「やりたいことは元気うちにしかできない。今を大切に心豊かに生きよう」などと話しました。

参加者らは、「命の大切を改めて考えさせられた」「笑いが命を助けることを知った」などと話していました。

外部評価結果（要旨）

- 農林業の振興（林業の振興）＜所管部局：農林水産環境部＞
市行造林事業について、経済的に成り立つ森林だけ再造林を行い、それ以外については環境保全機能を保持させつつ、維持管理にできるだけコストが掛からない方向での更新を検討すべき。
- ごみ・廃棄物対策 ＜所管部局：市民部＞
最終処分場によって開設日数等や運営方式の違いがある中で、これらを平準化することについて検討すべき。不法投棄や野焼きなどの対策を行った上で、ごみ袋の料金の値上げを検討してはどうか。
- 地域福祉の推進 ＜所管部局：市民部、健康長寿福祉部＞
ボランティアやNPO、自治会の活動などの地域共助の充実や民間団体の事業参入などを促進させることで、社会福祉協議会に対する補助金などの縮小を図ってはどうか。
- 学校教育の充実 ＜所管部局：教育委員会事務局＞
今後、学校再配置が進んでいく中で、外国語指導助手について、最低限必要な人数まで減らすことを検討してはどうか。また、各地域公民館に配置されている地域コーディネーターや指導主事について、教育委員会事務局へ集約を行うことで、総人数を減らし、効率化を図ってはどうか。
- 文化芸術活動の振興 ＜所管部局：企画総務部、教育委員会事務局＞
芸術文化事業の中で金額が大きい丹後文化事業団運営費補助金について、ボランティアスタッフの活用や職員数、人件費、雇用形態などの見直しを含めた運営経費の縮減を丹後文化事業団へ要請し、補助金額の削減を図ってはどうか。
- 防犯・交通安全の推進 ＜所管部局：市民部、商工観光部＞
防犯灯設置事業補助金について、設置費用の一部を地元にも負担してもらうよう補助率の見直しを検討すべき。また、市の財政が厳しい中では、防犯灯の設置ペースを落とすことを検討してはどうか。

提出された外部評価報告書は、市ホームページ（<http://www.city.kyotango.lg.jp/shisei/shisei/gyokaku/gyokaku/>）に掲載しています。



▶中山市長に外部評価報告書を手渡す窪田好男委員長（右）

行財政改革 外部の視点で市の施策・事務事業を評価

「歳出抑制のためには、発想の転換が必要」

市では、市が実施した事務事業や施策を外部の視点から点検・評価するため、「京丹後市行政評価委員会」（窪田好男委員長・京都府立大准教授・5人）による「外部評価」を8月から10月にかけて実施しました。その結果をまとめた「外部評価報告書」が10月30日、同委員会から中山市長に提出されました。

今年度の対象は、総合計画に掲げる37施策のうち6施策とそれを構成する事務

事業で、委員会では市が行った内部評価結果を検証。事業の成果は上がっているか、

事業に無駄はないかななどの行政評価の視点から、22件の改善点を指摘しています。また、普通交付税が平成27年度から段階的に削減され、大幅な歳入の減少が予測されることから、事業の見直しや廃止などの歳出抑制のための16件の具体的なアイデアが示されました。

報告書では、「行政評価の視点からはおおむね妥当」としながらも、「歳出抑制の視点からは従来の発想からの転換が必要」と総括しています。また、「合併前から継続している事務事業の抜本的な見直し」や「市から多額の補助金交付や業務委託されている特定の団体が実施している事業に特化した詳細な評価による市からの補助金や業務委託料の見直し」について指摘しています。

窪田委員長は、「歳出抑制のための提案は、必ず実行しなければならないものではないが、実行しないのであれば、代わりに別の歳出抑制策か歳入増加策をとる必要がある。委員会からの提案を議論のきっかけとして、市民も含めて市の施策や事業のあり方について議論していくことが重要」と話していました。

主な施策の評価と提案内容は次のとおりです。

行財政改革推進課
☎69・0050



大宮中学校生徒会は10月29日～11月2日までの1週間、校区内の3つの小学校児童会と協力して、「あいさつ運動」を展開しました。中学生があいさつする姿を小学生に見せることで、あいさつの気持ちよさを伝えることができました。

▲登校してくる児童に声を掛ける中学生たち（左・大宮第一小で）

間、校区内の3つの小学校児童会と協力して、「あいさつ運動」を展開しました。中学生があいさつする姿を小学生に見せることで、あいさつの気持ちよさを大切さを伝えるとともに、小中学生の交流を深めることを目的に行ったものです。

生徒たちは、各小学校の校門などに立って登校してくる児童一人ひとりにあいさつ。

大宮中生の「あいさつ運動」で交流図る

が、今日の発表会で軽減されたと思う」「両校で新たな伝統を築き、子どもたちが生き生きと楽しい学校生活が送れることを期待している」「生徒の皆さんが新しくスタートする学校のことをしっかりと考えていることが分かり、うれしかった」などの感想が寄せられました。

市では、学校再配置と連動した小中一貫教育の実現に向け、取り組みをさらに進めていくこととしています。

再配置向け、ハード、ソフト両面を整備

久美浜中、高龍中では、平成25年4月に学校再配置が行われるのを前に、地区の代表者、保護者、学校関係者らでつくる「久美浜中・高龍中学校づくり準備協議会」（清水義夫会長）を設置しています。校名や校歌、校章、通学路の安全対策のほか、学校施設の管理運営などについて協議。再配置に関するハード、ソフト両面について検討を重ねています。

一方、両校では生徒たちが円滑に新たなスタートが切れるように、授業の中で両校生徒の交流活動が実施されています。また、合同陸上記録会や合同文化芸術祭など積極的に行われています。



▲合同陸上記録会の様子（5月30日高龍中で）

「おはよう。今日も頑張っていこう」など、言葉を交わすごとに会話がはずみ、自然に交流を深めていました。

「あいさつ運動」を地域にも広げたい

あいさつ運動に参加した生徒は「うまく声掛けできるか心配だったが、小学生が元気に応えてくれてうれしかった」「声を掛けるうちに、つながりができたと思う。この運動を地域にも広げていきたい」などと笑顔で話していました。

図 学校教育課 ☎69・0620

京丹後市の学校教育改革、「小中一貫教育」を柱に

つながりの中に学びを育む ⑥

京丹後市の将来を担う子どもたちの健やかな成長を育むためには、時代に的確に対応した教育環境を整えることが重要です。市教育委員会では、平成22年度に「学校再配置計画」を策定し、この度、「小中一貫教育」の実現を柱とする「学校教育改革構想」を策定しました。今回は、この構想を踏まえた小中学校の取り組みを紹介します。



▲発表会で、保育所の職場体験の際に覚えた踊りを披露する久美浜中の生徒たち

久美浜中、高龍中の生徒が合同発表会

互いの発表に耳を傾け 成果たえる

来年度に再配置を迎える久美浜中、高龍中は11月3日、久美浜中で、「高龍中・久美浜中合同学習発表会」を開催。両校生徒と保護者、地域の住民など合わせて400人が参加しました。これまでの取り組みで生まれたつながりを生かし、さらなる交流につなげようと、「総合的な学習の時間」で実施した福祉体験や職



▲新久美浜中への決意を話す両校生徒会長の今田君（左）と清水君

場体験などを研究発表。参観者へのインタビューやクイズを交えて行いました。

生徒たちは、互いの発表に耳を傾け、大きな拍手でその学習成果をたたえていました。

両校生徒会長が新久美浜中のスタートに向け決意表明

発表会では久美浜中の今田智仁生徒会長と、高龍中の清水一平生徒会長が、新久美浜中のスタートに向けて共同宣言。「新たな伝統を築いていきたい」「仲間を認め合える学校にしていきたい」「何事にも感謝の気持ちを持って、地域との交流を深めていきたい」と決意を表明し、在校生に呼び掛けました。

来場した保護者からは「子どもたちは不安もあると思う



図 財政課 (☎69-0160) ⑫

方針に基づき予算編成

地方自治体の「予算」は、事務事業の「執行」「財源」支出の3つの「計画」を金額として示したものです。予算を編成するに当たっては、まず、基本的な考え方や留意事項を示した「予算編成方針」を作成します。

予算は、大切な税金で成り立っています。方針を掲げることで施策の「選択」と財源の「集中」を行い、重点的かつ効果的な配分を図っています。

現在、市では、3月定例議会に提出する平成25年度予算の編成作業をしています。そこで、今回は、来年度の予算編成を行うに当たって基本となる5つの考え方について説明します。

5つの考え方で予算を編成

産業の未来発展

経済・雇用情勢は依然として厳しい状況です。そのため、「企業立地推進・商業総合振興条例」の制定、平成26年度の京都縦貫自動車道全線開通に備えた準備など、さまざまな産業の本格的・持続的な発展を目指します。

環境循環のまちづくり

海、山、里の豊かな自然環境など、本市特有の魅力を活かしたまちづくりを推進します。特に、本市の強みを活かすため、新エネルギー創出を含めた再生可能エネルギーの地域展開など「環境未来都市」構築へ向けた取り組みを推進します。

ひとづくり

未来を発展させるには、「市民力」の醸成が不可欠です。教育、就業、スポーツ、観光など、さまざまな分野で活躍いただける「ひとづくり」と同時に、生涯を通じて活躍できる百歳健康長

未来への基盤づくり

社会基盤にはまだまだ不十分な面も多く、市民活動・企業活動などを行うためのハード・ソフト両面の環境整備推進が急務です。北近畿タンゴ鉄道の利用促進、下水道などの社会インフラの整備など、さまざまな分野での基盤づくりを推進します。

健全な財政基盤づくり

平成27年度からの普通交付税の縮減を乗り越え、持続可能な財政構造の構築を目指します。財政健全化指標にも留意した行財政運営を推進。具体的には、歳出予算の抑制、合併特例措置減減対策準備基金への5億円以上の積み立てなどを行います。

300億円台前半を目標に

以上の5つの考え方を中心に、平成25年度の予算が編成されることとなります。一般会計の当初予算では、

予算編成の透明性を確保

市の市税収入は、景気の低迷や人口減少などもあり、年々減少傾向にあります。厳しい財政状況が続きますが、市民の皆さんの知恵や協力により、本市の発展を目指します。

なお、予算編成の透明性を高めるため、予算編成方針や予算の編成過程について、市ホームページ（市の財政）で公開しています。[http://www.city.kyotango.lg.jp]

平成 25 年 1 月 1 日施行

暴力団排除はみんなの手で！

京丹後市暴力団排除条例って何ですか？

広報きょうたんご 11月号で「京丹後市暴力団排除条例」の制定についてお知らせしました。今月号では、その内容について、皆さんからのご質問にお答えします。

Q1：府内の市町村における条例の施行状況は？

A：平成 23 年 4 月 1 日に京都府が京都府暴力団排除条例を施行しました。平成 24 年 10 月末現在で、府内 26 市町村のうち 13 市町村が制定済みです。近隣市町では、平成 23 年 4 月 1 日から与謝野町と伊根町が施行。京丹後市のほか、宮津市および舞鶴市が平成 25 年 1 月 1 日から施行する予定です。

Q2：京都府や丹後地域における暴力団の現状は？

A：京都府内には、指定暴力団の会津小鉄会、山口組傘下の暴力団事務所が多数あります。北部地域は山口組、京都市及び南部地域は会津小鉄会と山口組の組事務所が混在しています。暴力団勢力数は、平成 23 年 12 月末において山口組が約 460 人、会津小鉄会が約 420 人という状況です。
※「暴力団勢力数」とは、暴力団構成員（組員）数に準構成員（組員ではないが、組関係者や従業員等）数を加えた数

Q3：市としての暴力団排除に関する施策は？

A：暴力団を社会から完全に排除するためには、警察による取り締まりはもとより、市・市民・事業者等が総ぐるみで取り組むことが重要です。
市では、これまでも、公共事業や市営住宅・公共施設からの暴力団排除等の施策を推進してきましたが、今後も、こうした取り組みを一層推進します。また、警察や京都府暴力追放運動推進センターなど関係機関と連携して広報啓発活動を積極的に展開します。さらに、暴力団員等による不当行為への対処方法の助言や指導、啓発行事の実施、各種団体の取り組みへの協力などを行います。

Q4：暴力団員等であるかどうかの判断の方法は？

A：市では、必要に応じて、暴力団と疑われる者等について京丹後警察署に照会し、その回答を受けて判断します。市民や事業者の皆さんは、日ごろから暴力団関係情報に関心を持ち、新聞、テレビ、インターネット（京都府暴力追放運動推進センター他）などを通じて情報を収集してくださ

い。暴力団排除に役立つ情報を知ったときには、市または警察に連絡いただきますようお願いします。

Q5：「暴力団員等と密接な関係を有する者」とは？

A：暴力団員と知らず、一緒にゴルフに行ったり飲食したりしたからといって、直ちに「暴力団員等と密接な関係を有する者」と判断されることはありません。しかし、暴力団員であると知りながら頻繁にそのような交際を行っている、「暴力団員等と密接な関係を有する者」と判断されます。事業者であれば、市の各種契約等の事務事業において排除の対象となる場合があります。

Q6：青少年に対して、暴力団排除の教育が必要？

A：青少年は社会経験が浅く、暴力団を美化するような風潮（漫画、映画など）の影響を受けて暴力団に対してあこがれを抱くようなことがあります。暴力団と関わりを持った結果、暴力団への加入を強要されたり、上納金を支払うため犯罪に手を染めたりしているのが実態です。
そのため、学校や地域社会において暴力団に対する誤まった認識を正し、将来、暴力団犯罪に巻き込まれたり、加入したりすることを防止するための教育を行う必要があります。

Q7：暴力団排除活動を行う場合に、身の安全は？

A：暴力団からの不当要求を拒否するなど、暴力団排除活動に取り組む市民や事業者の皆さんに、危害が加えられることは、絶対にあってはなりません。
京都府暴力団排除条例においても、警察本部長は暴力団排除活動に取り組む住民等に対し、保護その他の必要な措置を講じることを規定しています。暴力団に関するご心配があれば、京丹後警察署（☎ 62-0110）または「警察本部暴力 110 番（☎ 075-451-6888）」までご相談ください。

図 市民協働課
☎ 69-0240

「リ・スタイル」で エコな暮らしを

最終回
Vol.4

丹後が誇る自然の美しさは、私たち市民の「宝」です。しかしながら、時代の変化とともにこの美しい姿も変わりつつあります。美しい丹後の自然を未来につないでいくため、「リ・スタイル」で環境を意識した生活様式に見直してみませんか。

「リ・スタイル」(Re-Style)とは、

平成 14 年版循環型社会白書で国が唱えた廃棄物削減の 3R（リデュース、リユース、リサイクル）の Re を推進する生活様式のこと。本市では、この 3R の考えに、 unnecessary（必要ない）の購入しない、利用しない（発生させない）という立場をとる「リデュエクト」の考え方を加えて 4R としています。

最終回のテーマは「リデュエクト」。リデュエクトは不要なもの、環境に負荷がかかるものを購入・使用しないことで、環境に配慮した生活を送ることです。

「環境」の視点をプラスする

皆さんは、「グリーンコンシューマー」という言葉ご存知ですか？直訳すると、「緑の消費者」。環境を大切にすると消費者、といった意味で使われます。グリーンコンシューマーの活動は、日常の「買い物」を、価格、性能、安全性に「環境」の視点をプラスして行うこと。環境に配慮したサービスや商品作りを応援し

ていこうという活動です。

商品を購入する時に、リサイクルシステムのあつものを選ぶことや、過剰包装されるものは控えるなど、身近にできることから始めてみましょう。

商品選び・消費のポイント

○食料品

農薬や化学肥料ができるだけ使われていないものを選びましょう。また、包装が簡易な野菜などを選ぶことは、地産地消にもつながります。

○紙・文具

トイレットペーパーやティッシュペーパーは、使用後に再生することができません。そこで、古紙 100% の再生紙の使用を心掛けましょう。文具は、詰め替えや補充ができるものを選びましょう。

○空調

電気はなるべく使わない工夫を。冬になりますが、各部屋でエアコンをつけずに、家族でコタツを囲んでみてはいかがでしょうか。「コミュニケーション」も図れて一石二鳥です。

「環境ラベル」を参考に

皆さんの周りには、環境に配慮していることを示すマーク（環境ラベル）のついた製品がたくさんあります。購入の際には、参考にしましょう。



グリーンコンシューマー活動によって、環境に配慮された商品が普及し、環境への負荷が少なくなる商品の開発も進むため、将来にわたって持続可能な循環型社会の構築につながります。

皆さんのちょっとした行動で、京丹後市から環境配慮のある社会へ変えていきませんか？

図 環境バイオマス推進課
☎ 69-0480

私のエコスタイル



飯島 篤さん（弥栄町須川）

イル）な暮らしは、人（絆）と空気と水が豊かなことが必要と考え、都会から野間地区への移住を決めました。廃棄物を出さない循環型生活を目指し、畑に使用する肥料は生ごみ、し尿、灰などを利用しています。肥料自給率はほぼ 100%。有機肥料で育てた野菜はとてもおいしいです。

暖房は主として薪ストーブを使い、燃料も近隣の里山の保全を兼ねて自分で調達しています。ストーブには常時大鍋を置き、湯を有効利用することで LP ガスからのエネルギーシフトを図っています。

LOHAS な生活、ちよつとだけ取り入れてみませんか？



まちのわだい

★town topics★



宇川ならではの「のグルメを堪能

第3回「宇川美味しんぼ大会」に400人

10月28日 丹後町

食を通して宇川地域の魅力を発信する「宇川美味しんぼ大会」(宇川里力再生会議など主催)が10月28日、宇川小学校体育館(丹後町)で開催されました。同大会は今年で3回目。

地区別に分かれた5チームが考案したアイデア料理や郷土料理が各テーブルに並べられ、天然のアユや海藻を具材にしたご飯、イノシシ肉を使ったハンバーガーなど宇川グルメ25品が披露されました。

このほか、山の幸をふんだんに使ったブタ汁のふるまいや「平そば会」が作るゆがきたての手打ちそばも出され、家族連れら約400人は「宇川ならではの」味を堪能していました。

また、宇川小の児童にも地域の食文化を知ってもらおうと、出品者が各料理の素材や特徴を説明をしたり、「ばらずし」を一緒に作ったりしました。

この日同小の給食に、ばらずしやブタ汁が出され、児童たちは「おいしい」と口をそろえて感想を話していました。



▲テーブルに並んだアイデア料理を試食する来場者

児童ら稲わらの手箒作りに挑戦

わら細工職人から伝統の知恵を学ぶ

10月27日

弥栄町

弥栄地域公民館で10月27日、弥栄、網野地域公民館共催の「わら細工作り教室」が開かれ、両町の小学生60人がわら箒作りにチャレンジしました。

今回作った長さ30センチの手箒は、児童たちが田植え、稲刈り、稲木干、脱穀して手掛けてきたわらを使ったもの。児童たちは、わら細工を扱う今西重一(弥栄町堤)さんから手ほどきを受けながら、約1時間掛けて完成させました。

またこの日は、児童が収穫した新米を使ったカレーライスを試食したり、同公民館周辺を清掃したりして、児童たちは互いに交流を深めていました。



▶真剣な眼差しでわらを束ねて箒を作る児童たち



▲着物姿でランチを楽しむ参加者たち

峰山町内のホテルで11月3日、着物姿でランチやコンサートを楽しむ「きものでランチ」が開かれ、和装姿の男女87人が参加しました。

この催しは、羽衣ステーション(市観光協会峰山町支部)が、着物を活用したり多くの方に楽しんでもらったりすることを目的に毎年行っている「きもの古〜いマーケット」の10周年を記念して開催。会場には、華やかな着物や同マーケットで購入した着物をまとった男女が集い、ランチとコンサートを楽しみました。

コンサートでは、アカペラグループの「クーリー・ハイ・ハーモニー」がオリジナル曲に加えて松任谷由美さんのヒット曲「卒業写真」など懐かしのメロディーを披露。イベントに花を添えていました。

岡山市から参加した松岡泰子さんは「普段は着物を着る機会がないので、いいチャンスだと思って参加しました。着物の個性も豊かで、参加者の着物姿を見るだけでも楽しめました」と話していました。

男女87人が華やかな着物姿でランチ

11月3日

峰山町

茶香服で京丹後産茶に親しむ

5種の茶葉を使い、利き茶に挑戦

10月21日

久美浜町

久美浜公会堂で10月21日、鎌倉時代に始まったとされるお茶を使った遊び「茶香服」が開かれ、参加した15人がお茶の香りや色、味で銘柄を当てる“利き茶”を楽しみました。

このイベントは、同日開かれた「第22回久美浜まるかじりまつり」の一環で行われたもので、京丹後産のお茶に親しんでもらうことを目的に同まつり実行委員会が主催したものです。

茶香服に使用した茶葉は、京丹後産のほか、宇治市、宇治田原町や鹿児島県から取り寄せた高級茶葉など5種類。参加者は、じっくりと時間を掛けて5種類の茶を3回飲み比べ、銘柄を答えていました。

参加した中村明美さん(峰山町)は、「お茶によって色や香りが全く異なることに驚いた。京丹後のお茶は、日本を代表するお茶と比べても遜色なく、おいしかった」と話していました。



▲味や香りを吟味しながら茶の銘柄を答える参加者たち

大宮町の古民家で「秋穫祭」

つきたての餅やぼたん鍋に舌鼓

10月21日

大宮町

▲「ヨイショ」の掛け声で餅つきを体験する来場者

大宮町の小町公園近くにある築300年のかやぶきの古民家(大宮町五十河)で10月21日、「秋穫祭」が行われました。

家族連れら約400人が訪れ、ぼたん鍋やおにぎり、地域の住民が養殖しているニジマスの塩焼きなど、秋の味覚に舌鼓を打ちました。

同祭は、「地域を元気に」を合言葉に活動するNPO法人グリーンライフ丹後(由利進代表・大宮町)が初開催。市内の企業も協力しました。来場者らは、「ヨイショ」の掛け声で餅つきを楽しんだり、また古民家内で開かれたフラワーアレンジメント教室で、思い思いの作品を作るなどして、和の雰囲気の中でのんびりと一日を過ごしていました。由利代表は、「古民家は、京都市内の企業から譲り受けた大切な財産。今後も他企業と連携して、活用していきたい」と話していました。

7団体が演奏や歌声を披露

アミティ丹後でふれあいコンサート

11月4日

網野町

▶中学校吹奏楽の成果を披露する網野



恒例の「網野町ふれあいコンサート」(同コンサート実行委員会主催)が11月4日、アミティ丹後(網野町)で開催されました。今年で25回目。

この日、網野町内の学校やグループなど7団体が出場し、日頃の練習の成果を披露しました。

約250人が会場を訪れ、発表者の軽快な生演奏や元気な歌声などに合わせて手拍子をしたり、歌を口ずさんだりして、2時間にわたるコンサートを楽しみました。

同コンサートを主催する山副昭夫委員長は「地域の皆さんが、音楽を通して文化を楽しんでもらったり、世代間交流のきっかけになれば」と話していました。

たかが“貧血”と思わないで

がんや子宮筋腫の可能性もあります



今回は、貧血の原因や、貧血から見えてくる危険な病気について、弥栄病院の堀口医師に聞きます。



文
市立弥栄病院
産婦人科医長

ほりぐち いくよ
堀口 育代

貧血とは体内の「酸欠状態」

貧血とは、血液に含まれる赤血球と血色素（ヘモグロビン）が減少した状態のことで、簡単にいうと「体内の酸欠状態」です。貧血の判定は、赤血球やヘモグロビンの量で判定できます（下表）。

貧血になると、顔が青白い、疲れやすくだるい、頭が重い、耳鳴りがする、めまいを起こしやすい、動悸や息切れが激しいなどの症状が現れます。

	赤血球数	ヘモグロビン
男性	400万以下	13.0g/ml以下
女性	370万以下	11.5g/ml以下

貧血の原因によって適切な対処を

貧血の原因は、大きく分けて次の3つがあり、原因によって対処法も異なります。

①鉄分が不足することで起こるもの

鉄欠乏貧血といい鉄分が不足して貧血になるものです。数カ月間、鉄分をしっかりと補給することで、ほとんどのケースは治癒します。しかし、特に高齢になってから鉄欠乏貧血の症状が現れる場合は、消化管悪性腫瘍などの疾患の可能性がありますので受診が必要です。

②体が血液をつくれなために起こるもの

再生不良性貧血といいます。骨髓の血をつくる能力が低下するもので、赤血球、白血球、血小板の全てが減少します。難病に指定されており、血液内科の受診が必要です。

③どこからか出血しているために起こるもの

痔や過多月経（子宮筋腫）などが考えられるので、受診して詳しい検査を受ける必要があります。

悪性腫瘍があり、自分では気づかない程の少量の出血が続いて貧血になっていることもあります。「たかが貧血」と思って放っておいたら胃潰

瘍が悪化していた」というようなことも少なくありません。

また血液の病気やがんなどが原因のこともあります。特に、男性や中高年以降の方は要注意です。少しでも「おかしいな」と感じたら医療機関で受診しましょう。

多量の経血は子宮筋腫の疑いも

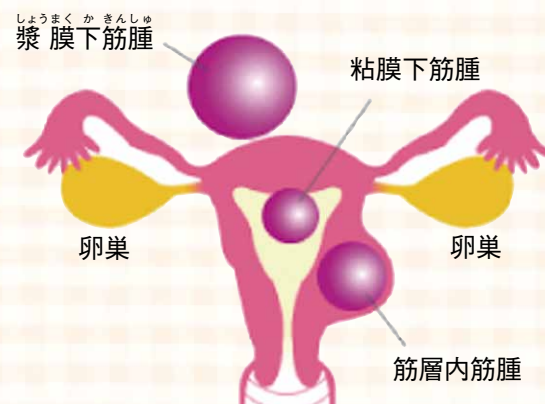
女性の方で、貧血と診断される方の中には、過多月経の方が多くいます。「過多月経」とは、普段より経血の量が多かったり、期間が長引いたりすることです。また、大きな血液の塊が毎回混じる場合も、過多月経と考えられます。もっとも、明確な基準がないために放置されることが多いのが実情です。

目安としては、「ナプキンが1時間もたない」「外出に支障があるほど出血が多い日が続く」などの場合は、過多月経と判断できます。

過多月経の原因に多いのが、「子宮筋腫」です。下の図の通り、主に3つの子宮筋腫がありますが、特に子宮の中にできる粘膜下筋腫があると過多月経になりやすくなります。

つまり、貧血の方は、子宮筋腫が原因で過多月経となり、血液不足となっている可能性があります。気になる方は、早めに婦人科で診察を受けましょう。

子宮筋腫の種類



▲一説には、細長い体形から「狭腹（さはら）」が語源となって「サワラ」となったといわれている

サワラってどんな魚なの？

冬の日本海の味覚はズワイガニや寒ブリだけではありません。これから旬を迎える「寒サワラ」は、脂がたっぷり乗って大変美味です。京都府農林水産技術センター海洋センター（宮津市）では、サワラの有効利用を図るための調査・研究を行っています。



▲市場に水揚げされたたくさんのサワラ

日本海では、平成11年頃からサワラの漁獲量が急増しました。そのなかでも、京都府は日本有数のサワラ水揚げ地の一つとなっており、日本一の漁獲量を記録した年もあります。

調査で分かった日本海におけるサワラ的生活史

日本海には、秋頃に東シナ海から生後半年ほどの若魚「やなぎ」がやってきます。日本海

増えたサワラを有効に利用するために

丹後地方では、サワラはなじみが薄く、家庭でも好んで食べる習慣がないことから、せっかく増えたサワラが有効に利用されていません。冬の「寒サワラ」は脂が乗っていておいしく、刺身で食べるのもおすすめです。また、日本海で多く獲れる「やなぎ」や「さごし」は脂肪

丹後地方では、サワラはなじみが薄く、家庭でも好んで食べる習慣がないことから、せっかく増えたサワラが有効に利用されていません。冬の「寒サワラ」は脂が乗っていておいしく、刺身で食べるのもおすすめです。また、日本海で多く獲れる「やなぎ」や「さごし」は脂肪

分が少なく、くん製やすり身、乾製品などの加工食品に適しています。そこで、水産物の加工を扱う方に向けて、日本海産サワラの利用加工技術をまとめた「サワラ加工マニュアル」を作成しました（海洋センターホームページ・丹後の海からの情報（平成24年4月）<http://www.pref.kyoto.jp/kaiyo/1338246903320.html>にて公開中）。加工マニュアルを活用した特産品開発などを進めていただき、サワラが地元でたくさん食べられることを期待しています。

図 京都府農林水産技術センター海洋センター
(0772・25・0129)



京都府で取り組んでいる市民生活にかかわる事業などについて紹介しています。

「サワラ」を地元で味わえるよう取り組んでいます。

サワラの加工マニュアルを作成しました



▶サワラの生態や新たな加工製法について解説した「サワラ加工マニュアル」



叙 位
正六位（教育功労）



【元公立小学校長】

昭和14年から長きにわたり公立小学校の教員として活躍。大規模校における教職員の資質と児童の学力向上に貢献。また、峰山町立図書館長、峰山町教育委員会委員長を歴任されるなど、多方面の功績が評価されました。

京都府保健医療功労者表彰



【市食生活改善推進員】

地域食生活改善推進員協議会の役員として、協議会組織を牽引し、食育活動の活性化を通じて、地域住民の健康づくりに貢献。その功績が評価されました。

全国優良経営体表彰
全国担い手育成総合支援協議会長賞



【農業】

酪農経営を主体に環境に配慮した循環型農業を実践。地元産の米やお茶などを活用した商品の製造・販売を積極的に取り組むなど、地域農業の振興や活性化に寄与した功績が評価されました。

京都府看護功労者表彰



【市立弥栄病院看護部長】

長年、京丹後市内の病院に勤務し、在宅医療の推進や看護職員の育成に取り組み、看護管理者として看護の質の向上に貢献。その功績が評価されました。

府民の消防賞



【市消防本部峰山消防署消防課消防司令補】

府内唯一の「水難救助隊」の隊長として、海難事故などの人命救助に携わる。府民の安全・安心な暮らしを守るため、各種訓練を実施するなど、日々の職責や後進育成の模範であるとして、評価されました。

京都府献血推進協議会長表彰



（株）大宮日進（大宮町谷内）

平成4年から20年以上にわたり、京丹後市における献血実施会場として、献血推進に貢献。また多くの社員が献血に協力するなど、その功績が評価されました。

京丹後市男女共同参画推進
優秀者表彰



京丹後市消防団女性消防団員

女性が参画する機会が少なかった消防団活動にあって、女性らしさを生かしながら、子どもたちやお年寄りを中心に防火・防災に関する啓発活動を推進。その功績が評価されました。

京丹後市火災予防ポスター 特選・入選



特選に輝いた絵が描かれた防火ポスターを披露する牧野君

- 【特選】
 牧野 克哉 君（田村小学校）
 【入選】
 松宮 真吾 君（川上小学校）
 家城 勇大 君（田村小学校）
 吉井 憲伸 君（神野小学校）

京丹後に想う Vol.3



スイカの収穫を喜ぶ劉さん（大宮町延利の畑で）

私の故郷は中国吉林省長春市です。長春市は自動車、映画、文化の町として知られる、人口750万人を超える大都市です。
 平成15年、主人の留学をきっかけに、家族3人で京丹後市にやって来ました。振り返るとアツという間の9年間で、この間に多くの素晴らしいもの、やことを発見しました。
 まずは、市民の優しさ。これは世界一だと思えます。毎日元氣な挨拶の声、ニコニコの笑顔、近隣も親戚のように親しいです。
 さらに、きれいな海、面白い伝説、温泉、旬の魚・カニ、果物狩りなど、楽しめることがたくさんあります。四季を通して



劉 玉萍さん (49)
大宮町口大野在住

在住外国籍市民の皆さんから投稿いただいた京丹後市への想いをシリーズでお届けします。

じて美しい山の景色。空気もおいしい！まさに「蓬莱仙境」※です。この自然を生かして、趣味で野菜を作って楽しんでいます。

平成16年、京丹後市と中国安徽省亳州市友好都市協定を結びました。

私は平成17年と19年、市の公式訪問団が訪中した際、通訳として同行しました。訪問団の皆さんが、亳州市や北京市の旅行会社で熱心にプレゼンされ、その内容をしっかりと伝えました。亳州市で行われた中山市長の講演では、京丹後市への観光誘致を懸命に呼び掛けられ、その時の様子を今でも思い出します。

皆さんの頑張る姿を見て、両国の友好交流の架け橋になりたいと強く思いました。以後、積極的に亳州市との交流活動や各種の国際交流活動などに参加しています。

現在、中国語講座を開講しています。語学を通じて異文化を共有し合い、友情を深めるきっかけになればと考えています。

私の大好きな第2の故郷。ひとりでも多くの人に知ってもらい、遊びに来てもらえるよう、宣伝したいと思っています。

※古来中国で不老不死の仙人が住んでいたと言われる場所

みんなの 声

ご意見箱から

ケーブルテレビ番組「週間！ニュース」に新しい情報を

▼9月16日、丹後100キロウルトラマラソンが開催され、久し振りに京丹後が賑わいました。近くで接していると、すごく走るということを楽しんでおられます。

『番組の枠の調整などにより、新しい情報の提供に努めます』

▼イベントの多い時期などは、情報の数が増えるため、情報を放送するタイミングが遅くなることがあります。

今後、番組の枠を調整したり、番組内容の編成を工夫（複数のイベントを一つの番組で紹介するなど）したりして、できるだけ新しい情報を市民の皆さんに提供できるよう努めていきます。

今後ともケーブルテレビのご視聴をよろしくお願いいたします。
 【企画総務部 情報政策課】
 広報クイズの応募はがきから

▼「間人漁港の一年」を調べ上げた間人小5年の小谷愛美ちゃん。とても感心しました。お父さん、お母さんの誇りですね。このようなお子さんが増える、とても嬉しいです。

【網野町・60代・女性】

▼ぼくは、学校の総合の時間でジオパークについて学習しているので、ジオパークについて詳しく取り上げてほしいです。
 【久美浜町・10代・男性】

【大宮町・60代・女性】

支援米8袋 福島県相馬市へ

市では、7回目となる支援米（一袋30キロ玄米）8袋を相馬市へ届けました。ご支援いただきました皆さん、ありがとうございます。支援米は、引き続き募集しています。

市災害支援対策本部
☎69・0140（総務課内）

いのち ぎずな 生命の絆

生まれてきてくれてありがとう

このコーナーでは、弥栄病院で赤ちゃん誕生の瞬間を喜びご家族の姿を紹介します。ご応募いただいた全ての方を掲載しています。どしどしご応募ください。

詳しくは秘書広報広聴課「生命の絆」係まで ☎ 69-0110



河原 優衣ちゃん(女の子)
10月生まれ・3,338g
母: 敬子さん 父: 英人さん
(網野町下岡)



熊谷 季々ちゃん(女の子)
10月生まれ・3,388g
母: 菜々子さん 父: 信嗣さん
(大阪府豊中市/実家: 弥栄町吉沢)



田中 理玖ちゃん(男の子)
10月生まれ・3,316g
母: 早希さん 父: 佑樹さん
(東京都荒川区/実家: 大宮町口大野)



前川 ゆきのちゃん(女の子)
10月生まれ・2,370g
母: 鈴代さん 父: 将太さん
(丹後町間人)



行待 欣乃助ちゃん(男の子)
10月生まれ・2,998g
母: 貴世さん 父: 佳樹さん
(弥栄町溝谷)



奥村 莉男ちゃん(男の子)
10月生まれ・2,968g
母: 陽子さん 父: 忠男さん
(大宮町周沢)



矢倉 一樹ちゃん(男の子)
10月生まれ・3,148g
母: 真由子さん 父: 昇吾さん
(兵庫県たつの市/実家: 網野町網野)

優勝峰山共同作業所チーム

車いす駅伝大会

過去最多の32チーム参加



▲ゆるキャラから声援を受け、スタートの合図を待つ選手たち

第4回京丹後市車いす駅伝大会(同実行委員会主催)が10月21日、市役所周辺で開催されました。障害者への理解を深めることや、地域のバリアフリー化の推進を図ることなどが目的。ジオパーク推進協議会に加盟する他府県市町村からの参加もあり、今年は過去最多の32チームが出場しました。会場には、参加者の家族や職場の仲間に加えて、「コッペちゃん」や京都府警の「ポリスマろん」などのゆるキャラも駆け付け、声援を送りました。同大会は、市役所前をスタートとして小西川沿いを周回する1.2kmのコース。1チーム5

人がたすき代わりにヘルメットをつなぎ、事前に設定したゴールタイムと、実際のゴールタイムとの誤差が少ないチームが高順位となる特別ルールで行われました。結果は、「峰山共同作業所チーム」がタイム差2秒で優勝。「京丹後市教育委員会チーム」がタイム差3秒で2位、「京丹後市議会チーム」がタイム差8秒で3位と続きました。



▲ねんりんピックのペタンク競技で3位入賞を果たした丹ペタ峰山チーム(左から尾畑さん、松本さん、森村さん)

丹ペタ峰山チーム 3位

宮城・仙台ねんりんピック ペタンク

60歳以上の方を中心とした健康と福祉の全国大会「ねんりんピック宮城・仙台2012」のペタンク交流大会が10月13～15日、宮城県内のサン・スポーツランド栗駒で開かれ、京都府代表の「丹ペタ峰山チーム」が3位入賞を果たしました。

同チームのメンバーは、監督兼選手の松本美都子さん(峰山町)、尾畑興市さん(同町)、森村巖さん(同町)。松本さんらは、「初めて、ねんりんピックに出場することができて、しかも、思ってもみなかった3位入賞を果たせたことは大変うれしいことです。今後も練習を重ね、さらに上を目指して頑張りたいです」と入賞の喜びを話していました。



▲五輪選手と一緒にカヌーを楽しむ参加者たち(左はしは松下選手、2番目は北本選手)

久美浜湾カヌー競技場で11月4日、「もっと元気な京都ジュニア『夢・未来』スポーツ体験事業」(京都府カヌー協会などが主催)が開かれ、地元の小中高生など約100人が、オリンピック選手と一緒にカヌー競技を楽しみました。

アテネ、北京、ロンドン五輪出場の前北本選手と、ロンドン五輪出場の松下桃太郎選手が講師となり、カヌーの楽しさや早く漕ぐコツを実技を交えて指導しました。同日、日韓代表チームの合同練習も行われ、学生たちはトップ選手の練習を真剣な眼差しで見学していました。

小学校駅伝 優勝 網野南 A

第21回京丹後市小学校駅伝競走大会が10月27日、峰山途中ヶ丘公園を周回する約12kmのコースで行われ、市内の小学校から33チーム約200人が出場しました。選手たちは、沿道の保護者たちから大きな声援を受けながらコースを駆け抜け、タスキをつなぎました。

優勝は、網野南小A(47分07秒)で、2位は大宮第一小Bチーム(47分14秒)、3位は間人小(47分20秒)と続きました。



▶沿道から声援を受けてコースを駆け抜ける選手たち

田中さん(中央)からキノコの説明を受けメモをとる参加者



琴引浜周辺の魅力を紹介する「琴引浜ガイドウォーク」が10月28日、琴引浜周辺(網野町掛津)で開催されました。

この日、府内から11人が参加し、琴引浜周辺の松林を散策。地元でキノコ博士と呼ばれる田中明男さん(大宮町)から、キノコの種類や特徴、味などの説明を受けました。

参加者は、小ささまざまな形のキノコを手に取り、「きれい、かわいい」などと感想を述べ、メモをとった。

り、カメラに収めたりしていました。

散策後、掛津区民センターに会場を移し、田中さんから「キノコの楽しみ方」や「採集時の注意点」などの補足説明を受けました。

また参加者は、田中さんが採集したキノコを具材に使った、「キノコ鍋」を味わい「次も是非参加します。キノコが好きになりました」などと話していました。

同ウォークは、山陰海岸ジオパーク啓発事業の一環として、ジオサイト(ジオパーク内で特徴的な見どころ)をガイドが説明。ツアーを主催する琴引浜鳴き砂文化館(松尾秀行館長)は「琴引浜を含めた周辺の魅力も知ってほしい」と散策ツアーを企画されました。

このようにジオパークに関連し、新たな魅力を発見する取り組みが進められています。

(観光振興課)

山陰海岸ジオパーク



琴引浜ガイドウォーク開催 浜周辺の松林を散策 キノコの魅力を学ぶ



「三条西実隆が清書した円頓寺惣門勸進状※」(円頓寺所蔵)

久美浜町の円頓寺に所蔵されている円頓寺惣門勸進状は、文亀元(一五〇一)年に、円頓寺の惣門の再建費用を集めるために作られたものです。

本文には、その昔、鬼が出没して人々を悩ませていたところ、用明天皇の皇子の一人が鬼を退治し、お寺を建て、薬師如来や仁王の像を安置したとあります。

そして由緒あるお寺の惣門が傷んだため、再建費用を求める内容が記載されています。

勸進状で惣門の再建費用を依頼

この勸進状を清書したのは、当時、一流の文化人として知られた三条西実隆でした。このことは、「実隆公記」(実隆の日記)の文亀元年8月19日に記されています。

このように円頓寺勸進状は、鬼退治伝承を記すことと、三条西実隆が清書したことが明らかな室町時代後期の勸進状として大変貴重なものである点が評価され、平成3年4月19日付で京都府指定文化財(古文書)になりました。

(文化財保護課)

※勸進状の全文と写真は、今年3月に発刊した京丹後市史資料編「京丹後の伝承・方言」に収録しています。

また10月に発刊した「図説京丹後市の歴史」のコラムに紹介しています。



Pick-up

網野高生 全国商業研究大会に出場

日帰り旅行ツアーをプレゼン

全国大会出場を決めた網野高校生徒の皆さん(後列両端は同校教員)



全国の商業系の高校が調査研究を発表する「全国高校生商業研究発表大会」に出場する網野高校企画経営科の7人が、10月24日、市役所を表敬訪問しました。

同大会では、生徒たちが企画した「日帰り丹後ツアー」を発表する。丹後の豊かな自然と郷土料理、北近畿タンゴ鉄道(KTR)など地域の特色を盛り込んだ。この日中山市長に出場を報告した後、市職員らを前に本番さながらのプレゼンテーションを行いました。

リーダーの奥田康平君(3年)は「府・近畿大会よりレベルを上げ、チームワークを生かして、丹後の魅力を思いっきり伝えたい」と抱負を話していました。

全国大会は、11月28～30日徳島市で開催。

間伐材を地域通貨で購入

木の駅プロジェクト始まる

山に放置されている間伐材を山林の所有者から買い取り、山林の整備を支援する実証実験「木の駅プロジェクト」(同プロジェクト実行委員会)が11月1日、府内で初めてスタートしました。

この日市内で3カ所の「木の駅」(木材集積場)が開設され、事前に出荷者として登録を済ませた林業や環境保全に関わる市民らが、直径20センチ長さ2メートルの丸太を運び込みました。出荷者のひとり小西正誼さん(大宮町)は、「これにより山から雑木などが排出され、山林保全のきっかけになれば」と話していました。持ち込まれた木材は、同プロジェクト実行委員会が1トン当たり6,000円で買い取り、出荷者に金額相当分の地域通貨「モリ券」(市内58店で使用可能)を支払う仕組み。木の駅は、12月2日まで開設。

スギやヒノキの間伐材を出荷する様子(大宮町河辺の集積場)



Pick-up

大宮ふれあい工房で「郷土の偉人展」開催

野球人 野村克也氏の歩みを紹介

京丹後市の名誉市民で元プロ野球選手・野村克也氏の功績を讃える「郷土の偉人展」が11月10日から大宮ふれあい工房(大宮町三坂)で開催され、市内外から多くの野球ファンが会場に訪れました。

同展は、市出身の著名人を紹介し、地域活性化



野村さんが現役時代に受賞したトロフィーがズラリと並ぶ(大宮ふれあい工房で)

に役立ててもらおうと、「野村克也顕彰活動プロジェクト」(福山勝久委員長)と「たからの杜実行委員会」(田中清隆会長)が企画。今年で2回目。

野村さんは、27年間の現役生活で、三冠王を含め本塁打王9回、史上最多となるベストナインに19回など多くの賞に輝

く。さらに監督としても、歴代5位となる通算1565勝を達成し、数々の大記録を樹立。

会場には、記録の足跡をたどる写真や2000本安打達成、MVP受賞時トロフィー、市民が所有する記念のバットやボールなどが展示されています。

主催者の福山委員長は、「野村さんは、幅広い世代のファンに愛されている。まさに京丹後の誇り。来場者から、常設展示を望む声が多く寄せられている」と話していました。

無料。12月2日まで(11月28日は休館)

※関連企画
来る12月1日、野村克也氏による講演会「敵は我にあり」(京都府丹後文化会館・無料)が予定されています。

図書館だより

今月のおすすめ

■きょうのごはん



子ども向け

夕方あちこちの家からいい匂い。こっちの家の晩ごはんは何かとネコがのぞいてまわります。カレーライス、コロッケ、お寿司…。おいしそうなおかずと一緒に、食卓を囲む家族の笑い声が聞こえてきそうな絵本です。

加藤 休ミ／作 偕成社

■ありがとう、さようなら



大人向け

著者が京都府北部の中学校で教師をしていた頃の出来事を綴ったエッセイ集。生徒と過ごした日々、「おみやあが…」の教頭先生のことば、鯖・牡蠣・丹プロ大会の思い出…ページをめくりながら思わず笑みがこぼれます。

瀬尾 まいこ／著 メディアファクトリー

12月図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
12/2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	1	2	3	4	5

◆開館時間／10時～18時（峰山・あみののみ水曜は19時まで）
毎週月曜・毎月1日は休館日（土日祝日と重なる場合は翌日）

◆貸出／1人20点まで・2週間

◆図／峰山図書館（☎62-5101） 大宮図書室（☎69-0672）
あみの図書館（☎72-4946） 弥栄図書室（☎65-2101）
久美浜図書室（☎82-1771） 丹後図書室（☎69-0664）

図書館(室)からのお知らせ

- 図書館の本や資料などは市民の財産です。図書館の資料を汚したり、破損した場合は、個人で修理せずに図書館にご相談ください。修理不可能な場合や、紛失等で返却できない場合は、弁償していただくこととなりますので、大切に扱ってください。
- 年末年始の「休館日」について
市内の図書館（室）は、12月28日（金）～平成25年1月4日（金）まで休館します。休館時の本の返却は、「峰山図書館」と「あみの図書館」の返却ポストを利用ください。（他の図書室の返却ポストは利用できません）

「三津むかしはなし」の読み聞かせの様子（あみの図書館で）



大人の「耳から読書」に40人

あみの図書館は10月21日、第6回大人の「耳から読書」を開催しました。会場を訪れた40人は、旧三津小児童が手掛けた絵本『三津むかしはなし』の趣ある絵に見入り、また丹後弁で語る昔話に、興味深く聞き入っていました。

このほか、ユーモアあふれる丹後の昔話「奥山のためき」や網野町出身の絵本作家・梅田俊作さんの『かえしてよ、ばくのぼうし』などの読み聞かせを楽しみました。

★丹後弁で昔話に來場者聞き入る

京都府丹後文化会館 インフォメーション



“新春スペシャル” 前売券発売中
宮本文昭 & 宮本笑里
～トーク&コンサート～

平成25年1月13日（日）

時 14:00（開場 13:30）
所 京都府丹後文化会館（峰山町杉谷）

料 一般…3,500円

高校生以下…1,500円 全席指定

※当日各500円高

※未就学児の入場はご遠慮ください

主催 / 京丹後市・(財)京都府丹後文化事業団

図 京都府丹後文化会館 ☎62-5200

12月1日からスタート

歳末たすけあい運動

募金は各区長さんを通じて依頼していますので、ご協力をお願いします。

図市社会福祉協議会
☎65-2100

市職員人事異動

退職 [10月31日付]

弥栄病院技術部 理学療法士 前野 伸輔



高嶺のカニ「間人ガニ」

紅葉も見ごろを終えいよいよ丹後にも冬がやってきます。冬の味覚といえばやっぱりカニ！

京丹後には間人漁港に5隻、浅茂川漁港に1隻の底曳船があります。京丹後の船は小型船なので海がしけだと漁に出られません。でも、小型船だからこそ日帰りで漁をするので新鮮なカニが食べられるということにもなるんですね。鮮度が勝負のカニ、新鮮なうちにと夜の日本海で必死に漁をされる漁師さんには頭が下がります。

さて今年は解禁前の調査では豊漁、それもコッペはかなりの量らしい。そんな期待を胸に迎えた11月6日、私は「待ってました」とばかりに間人港へ直行！初日の漁を終えた底曳船の船長さんは「オスガニは去年と同じ、コッペは少なめかな」と。

カニ漁も甲羅…いや、ふたを開けてみないと分からないものです。午後からセリも始まり独特の言い回しが心地よく耳に響く中、驚くような価格が！！コッペでは80匹入ったトロ箱が11万円、オスガニでは5匹で17万円！となると一匹が…あまりの高嶺に泡を吹いてしまいました(笑)。さすが京丹後が誇るブランド、間人ガニですね。そんなオスガニは京丹後に別れを告げ京阪神・首都圏へと…まさに幻のカニです。

取材を終えた優は、間人港大橋

から少し荒れ始めた日本海を眺めつつ、ジオがもたらしてくれる海の幸と丹後に感謝。

耳を澄ませばうらにしの風が「傘も弁当もだけど1年の反省も忘れないで！」ってささやいているよう。

そう、「心」をテーマにした2012年もあと1カ月。「心の在り方」を考えさせられる1年でもありました。

40代となる来年はコッペにあやかっってホッペが赤くなるようなときめきの年にしたい！これが若さの秘訣であり“ミソ”かもね♥

市政情報番組 FM たんご FM79.4 聴

- たんご・モーニング・サンド！ 月～金 7:00～8:58
- 京丹後市からのお知らせ 月～金 13:00～13:05、16:54～16:59

Check

広報クイズ

今月号の記事の中からクイズを出題します。全問正解者の中から抽選で5人に図書カード500円分をプレゼント！

- 問1 今月号の特集は、市民みんなが地域の○○○○○
問2 若者が集い「京丹後まちづくり○○塾」スタート
問3 男女○○人が華やかな着物姿でランチ

◆応募方法

はがきに ①クイズの答え（○の中に入る数字や文字） ②住所 ③氏名〈ふりがな〉 ④年齢 ⑤電話番号 ⑥広報紙の感想やイラスト、取り上げてほしいテーマなどをご記入の上、秘書広報広聴課まで（宛先は裏表紙を参照）。なお、お寄せいただいた感想やイラストは広報紙に掲載することがあります。※⑥の項目も忘れずにご記入ください。

◆応募締切

12月14日（金）当日消印有効。当選者の発表は来月号のこのコーナーで。

◆11月号の答え

問1…337 問2…幸福 問3…大宮第三

◆11月号当選者

岡本カツ子さん（峰山町）、大谷一三さん（久美浜町）、加藤康代さん（峰山町）、古川明美さん（峰山町）、中西祐良さん（久美浜町）

応募総数26人、正解者数24人でした。ご応募ありがとうございました。

Kia 京丹後市国際交流協会



市国際交流協会は、市内在住の外国籍市民を対象に「日本語教室」を開催しています。

「日本語を勉強したい」という声もたくさん寄せられ、多くの方に学んでもらえるよう、日本語を教えるボランティアを募集しています。

支援いただける方は事務局までご一報ください。

●日本語教室では、外国語は使わずに日本語だけで教える直接法を用いるので、外国語が話せなくても、構いません。

●日本語指導の研修会なども行っていますので、初めての方でも大丈夫です。

事務局（京丹後市企画政策課内 ☎69-0120）



仕込み蔵で酒造りへの思いを話すハーパーさん

kyotangojin

国内唯一の外国人杜氏

フィリップ・ハーパー さん(46)

京丹後人

32

イギリス出身の杜氏が 手掛ける「輪」の酒

山々が赤く染まるこの時期、酒の仕込みが始まり、市内8つの酒蔵は慌ただしさを増す。このうち江戸時代から続く久美浜町の造り酒屋（木下酒造）に国内で唯一の外国人杜氏がいる。イギリス出身のフィリップ・ハーパーさん（46）。酒づくりへの思いを聞いた。

昭和63年、高校の英語教師として来日。職場の同僚に薦められ日本酒を知った。米でつくる酒が醸し出すフルーティーな香り。冷やから熱燗など飲む温度や料理によって楽しみ方もさまざま。日本酒の奥深さに驚いた。

2年の教員プログラム終了後も日本に残った。日本酒専門店の居酒屋で働きながら、利き酒会に参加したり、酒蔵見学や田植えを体験するなどして、酒の世界にのめり込んでいった。平成3年、知人のいる造り酒屋に飛び込んだ。

見習いとして10年、精米から米洗い、仕込みに至るまでさまざまな作業の基礎を学び、同時に原料や気候により、出来が大きく変わることも体感した。長い修行生活が実を結び、「南部杜氏」の資格も取得した。

平成19年、先代の杜氏が亡くなり、廃業を考えていたという木下酒造（木下善人社長）を取引先がハーパーさんに紹介。木下社長は、「うち（玉川）の味を楽しみにしてく

れる皆さんの期待に応えたい。昔ながらの定番だけ残し、それ以外は、あなたの目指す酒を思う通りに造ってくれたらいい」と想いを伝えた。

ハーパーさんは熱意に負け、見知らぬ土地での挑戦が始まった。「酒づくりは、酵母などの微生物を扱う仕事。蔵で働く者の役割は、リズム良く酵母の活動をサポートすること。だから現場のチームワークが重要」と語る。技術だけでなく、原料にもこだわるハーパーさんは、米農家とのつながりを大切に、田植えや稲刈りを手伝うこともある。事務や渉外担当とも情報共有を図り、市場動向も探る。新たな挑戦も試みている。現在は、人工酵母を使った酒づくりが主流だが、ハーパーさんは、蔵に住み着いた天然の菌（蔵付酵母と呼ばれる）で醸す製法を取り入れている。この方法は、味にムラが出たり、時間や手間が掛かるが、熟成するたびにふくよかな香りと、蔵独自の味が生まれる。

新商品も生まれている。水で割って飲む酒「Ice Breaker」や江戸時代の酒を再現した「Time Machine」を開発。ネーミングは英語表記とし、ラベルやビンも洋風とした。日本酒は、外国人による消費も伸びている。もっと日本酒を世界に広めようと、海外での講演や執筆活動なども精力的に行っている。ハーパーさんについて、木下社長は、「斬新な感性、行動力、日本人以上の日本人」と讃える。

下積み時代に培った経験と自信、海外のネットワークを生かし、チーム玉川の「リーダー」として、さらなる努力と挑戦は続く。

つぶやき

▼11月に入り、カニ漁が解禁しましたね。この時期になると、子どもの頃を思い出し、新聞紙を広げて大好物のコッペの内子を、少々手が臭かるうが、ケガをしようが夢中で食べたことを。今では、「面倒くさい」ので…。▼さて、今回取材した「郷土の偉人展」では、「野村克也」氏の野球人生がパネル写真で紹介されていました。会場には、本塁打王やMVP、歴代最多出場試合数など大記録の証となる記念トロフィーや楯がズラリと並んでいました。改めて野村さんの偉大さを実感すると同時に、「常設展示場」があればいいなと思いました▼京丹後には、自慢できる「一番」がいくつもあり、また磨けば輝く原石もたくさんあると思います。野村さんに倣ってそれぞれの分野で三冠王獲得を目指しましょう／樹

人口・世帯数

男	28,991人（－14）
女	31,172人（0）
計	60,163人（－14）

世帯数 22,519世帯（＋24）

11月1日現在、カッコ内は前月比。

住民基本台帳（外国人含む）による。

広報きょうたんご1月号は1月10日に発行します。